

Dīpaṃkaraśrījñāna の *Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda* について

望月 海慧

はじめに

Dīpaṃkaraśrījñāna の著作のうち、*Vimalaratnalekha* と *Bodhisattvamānyāvalī* の間に多くの平行句が存在するについては、すでに多くが論じられている¹。このことは、どちらかのテキストが先に著されたものであり、後のものは先行するテキストからフレーズを借用したものである、と推測することができる。前者については、彼の伝記の中にネパールからパーラ王に宛てて手紙を著したという記述があることから、その手紙が元になっていると推測できるものの、その一方でパーラ王との関係を示す記述は最初と最後に付されているのみであることから、既存の著作を元にしてパーラ王の手紙が作成された可能性も排除できない。後者の推測は、さらに、パーラ王との関係性を強調させるために後代に作られた著作である、と言う憶測さえ生んでしまう。

もう一つの *Bodhisattvamānyāvalī* については、そのテンギユル収録のものとかダム派伝承のものとの偈頌の順番の相違があることが報告されている。このことは、両版にも先後関係が存在することを意味しているのだが、その偈を読んでいくと1偈を4パーダで解説し難いことがわかる²。そのことから、両者の異同は、それを解消しようとした結果として生じたものと推測できる。そうだとすると、本論の先行する版においてテキストに混乱が生じていた可能性がある。

上記の二つのテキストに加え、同じ著者の *Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda* を調査する過程において、同論にも上記の二つの著作との間に複数の並行句が存在することがわかった。二つの文献の平行句のみであるのならば、先後関係の問題のみであ

¹ 『菩薩摩訶薩論』の句の80%は、*Vimalaratnalekha* に一致することは、Eimer 1981, 望月 2004, 望月 2016b を参照。

² 偈頌で著された彼の多くの著書が、4パーダを1偈で読むことが困難であるので、テキストをパーダで数えることにする。

るが、それ以上の平行句は、彼の著作の中にフレーズの借用関係の可能性を意味している。本稿では、本論に基づいて、このことを検証してみる。

Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda の平行句

本論の内容に関する簡略な紹介はすでに行っているの³、ここでは *Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda*⁴における他の著書との平行句の分析のみについて提示する。まず、上述の *Vimalaratnalekha* と *Bodhisattvamaṇyāvalī* との平行句を見してみる。最初の平行句は、第 23 ページに見られる。

最高の位に行く見そのものを第一に修練し、清浄な戒の衣を着て、成就を勤勉に大事にするべきである⁵。 [BS 18-23]

この最後の句に一致するものを *Bodhisattvamaṇyāvalī* と *Vimalaratnalekha* に見ることができる。

一切の疑惑を捨て、成就を勤勉に大事にするべきである⁶。 [BM 1-2, VR 13-14]

Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda では、戒波羅蜜の後にこの句が述べられているのに対し、後の 2 論では、疑惑の除去の後である。もう少し詳細に見ると、前者では、その前に「[見と行の] 二つを成就させるために困難な大精進によりなすべきである⁷」と述べられており、後者では、直後に「常に精進をなすべきである」とあるので、この句が精進と関連して述べられていることがわかる。また、この後者の、

³ 望月 2016a: 91-93.

⁴ *Byang chub sems dpa' spyod pa mdo tsam gdams ngag tu byas pa*. C. Khi 241a1-242a5, D1. No. 3946, Khi 237a3-238a6, D2. No. 4472, 10a5-11b1, G1. Ki 375a3-376b6, G2. Ki 470a3-472a4, G3. Gi 13b4-15a4, N1. No. 3333, Ki 269a3-270b1, N2. No. 3339, Ki 338b1-339b7, N3. No. 3376, Gi 11b6-13a2, P1. No. 5342, Ki 273a3-274b1, P2. No. 5348, Ki 343a2-344b1, P3. No. 5385, Gi 13a3-14b3.

⁵ *Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda* (= BS) 20-23: go 'phang mchog tu 'gro ba yi // lta ba nyid la gtsor sbyangs te // tshul khirms gtsang ma'i gos gyon nas // sgrub la nan tan gces su bya //

⁶ *Bodhisattvamaṇyāvalī* (= BM) 1-2 (*Vimalaratnalekha* (= VR) 13-14): the tshom thams cad rnam spangs shing // sgrub la nan tan gces su bya (VR: *che bar mdzod*) //

⁷ BS 14-15: de phyir de gnyis 'grub pa'i phyir // dka' ba'i 'bad pa chen pos bya //

蒙昧と怠惰を捨てるべきで、常に精進をなすべきである⁸. [BM 3-4, VR 15-16]

と述べられる前半の句は、前者においても次のように再出する。

苦を楽と把握せず、蒙昧と怠惰と錯乱を捨てて、確実に死の想を起こすべきである⁹. [BS 53-55]

「散乱(g-yeng)」の語が加えられているものの、ほぼ同じ句である。ただし、前後の句が異なるために、完全なる借用関係とは言えないが、先行する句を認識していた可能性はある。

さらに、*Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda* のこの句の直前に述べられる、

この財産を捨てて、聖者の宝で身体を飾るべきである¹⁰. [BS 51-52]

と言う句も、若干の相違はあるものの、*Bodhisattvaṃaṇyāvalī* と *Vimalaratnalekha* において、

一切の財産を捨て、聖者の宝で飾るべきである¹¹. [BM 25-26, VR 41-42]

と述べられ句とほぼ一致する。ただし、*Bodhisattvaṃaṇyāvalī* のみ、これに続いて七宝の説明が加えられている。

Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda と、*Bodhisattvaṃaṇyāvalī* と *Vimalaratnalekha* の2論との平行句については、後半にも見ることができる。すなわち前者の、

⁸ BM 3-4 (= VR 15-16) gnyid rmugs le lo spang bya zhing (VR: *rnam spangs shing*) // rtag tu brtson 'grus 'bad par bya //

⁹ BS 53-55: sdug bsngal dag la bder mi bzung // gnyid rmugs le lo g-yeng spangs te // nges par 'chi ba'i dus⁹ shes bskyed //

¹⁰ BM 51-52: 'di yi zang zing rnam spangs te // 'phags pa'i nor gyis lus brgyan bya //

¹¹ BM 25-26 (= VR 41-42): zang zing thams cad rnam spang zhing // 'phags pa'i nor gyis brgyan par (VR: *phyug por*) bya //

いかなるものに対しても執着を捨てるべきで、劣った者に対する悲心と利益の思いで教誡をなすべきである¹². [BS 93-95]

と述べられる句の前半は、動詞に付される接尾辞が異なるものの、後者の、

いかなるものに対しても執着を捨てるべきで、執着なしにとどまるべきである¹³. [BM 49-50, VR 75-76]

と一致している。ただし、前者では、悲心と利他に移行するのに対して、後者では無執着への言及が続いている。

さらに、*Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda* の、

軽蔑や罪過の生起などの対治の業と虚妄による修練をそのように見て、菩提行の本尊を堅固にすべきである¹⁴. [BS 102-105]

と述べられる句の末尾は、*Bodhisattvamaṇyāvalī* と *Vimalaratnalekha* に類似する句を見ることができる。すなわち、すなわち、*Bodhisattvamaṇyāvalī* の

自分で自分を隠すべきである。執着なしにとどまるべきである。常に本尊を堅固にするべきで、怠惰や汚い心が生じたときは、その時の自分にある罪を数え、戒禁と心髄を思い出すべきである¹⁵. [BM 74-79]

と、*Vimalaratnalekha* の

¹² BS 93-95: gang la chags pa spang bya ste // dman pa rnams la snying rje dang // phan pa'i bsam pas gdams ngag bya //

¹³ BM 49-50 (= VR 75-76): gang la chags pa spang bya zhing // chags pa med par gnas par bya //

¹⁴ brnyas dang nyes pa byung la sogs // gnyen po las dang brdzun pas sbyang // de ltar blta zhing byang chub kyi // spyod pa yi dam brtan par bya //

¹⁵ BM 74-79: bdag gis bdag nyid sba bar bya // chags pa med par gnas par bya // rtag tu yi dam brtan bya zhing // le lo rnyog ba'i sems byung tshe // de tshe bdag la brngan⁷ bgrang zhing // brtul zhugs snying po dran par bya //

どこにおいても誰にも知られず、自分で自分を隠すべきである。常に本尊を堅固にするべきである。欲と害心と眠気と昏睡と怠惰と疲労が心に生じたとき、その時に自分における罪を数え、戒禁の心髓を思い出すべきであり、無常と死のことを思うべきである¹⁶。[VR 106-113]

Bodhisattvamānyāvalī と *Vimalaratnalekha* の間には表現の違いがあるものの、同じ内容である。ただし、*Bodhisattvacaryāsūtrikṛtāvavāda* は、前後の句が異なるものであることから、全くの一致とは言い難い。

Vimalaratnalekha に関しては、*Bodhisattvacaryāsūtrikṛtāvavāda* との平行句をもう少し見ることができる。すなわち、

法のためではないものを除いて、食事や衣などを求めず、少欲と知足をなすべきである¹⁷。[BS 58-60]

に説かれる少欲知足の句は、*Vimalaratnalekha* では、

欲は少なく、足りていることを知り、なされたことに対する感謝をもつべきである¹⁸。[VR 35-36]

と説かれている。前者は名詞句で説かれているのに対して、後者は動詞句であるが、この後者は *Mahāyānapathasādhanavarṇasamgraha* においても、

聖なる四種姓にいる者は、欲は少なく、足りていることを知るべきである¹⁹。
[MP 207-208]

¹⁶ VR 106-113: gang du sus kyang mi shes par // bdag gis bdag nyid sba bar bya // rtag tu yi dam brtan par bya // 'dod dang gnod sems gnyid dang rmugs // le lo snyoms las sems byung tshe // de tshe bdag la rngan bgrang zhing // brtul zhugs snying po dran bya dang // mi rtag pa dang 'chi ba bsam //

¹⁷ BS 58-60: chos kyi ched du ma gtogs par // kha zas gos sogs don mi gnyer // 'dod pa chung dang chog shes bya //

¹⁸ VR 35-36: 'dod pa chung zhing chog shes dang // byas pa drin du gzo bar bya //

¹⁹ *Mahāyānapathasādhanavarṇasamgraha* (= MP) 207-208: 'phags pa'i rigs bzhi la gnas pas // 'dod pa chung zhing chog shes bya //

と述べられている。ただし、これらの句は一般的な表現であるために、借用関係よりも、単なる一致と見るべきであろう。この *Mahāyānapathasādhanavarnasamgraha* については、*Bodhisattvacaryāsūtrikṛtāvavāda* との類似表現をもう一つ見ることができる。すなわち、

自分に過失があることを感受せずに、他者の過失を考察するべきではない²⁰。

[BS 61-64]

の句は、*Mahāyānapathasādhanavarnasamgraha* の

他者の過失を考察せずに、自らの過失を見るべきである²¹。 [MP 187-188]

と類似している。ただし、これと類似する表現は彼の他の著書にも見られ、例えば、前出の *Vimalaratnalekha* では、

自らの過失を考察する際は、目のある人のようにするべきであり、他者の過失を考察する際は、盲者のように²²。 [VR 21-22]

と述べられており、*Ratnakaraṇḍoghāṭa* では、次のように、Nāropa の説として孫引きされている。

尊師 Avadhūtipa は、

自分の過失を考察するのは鋭い目の者のように、他者の過失を考察するのは盲目のように。正直で我慢がなく、常に空性を修習するべきである。

直接または間接に悲心により、自らと他者を入れ替えるべきである。何故ならば、自分より衆生を慈しむためである。

²⁰ BS 63-64: rang la skyon yod mi tshor bar // gzhan gyi skyon la dpyad mi bya //

²¹ MP 188: gzhan skyon mi brtag rang skyon blta //

²² VR 21-22: rang skyon rtog la mig bzhin bya // gzhan skyon rtog la long ba bzhin //

と師ナーローパが説かれている。菩薩は、自らよりも他者を慈しむべきなので、自らと他者を入れ替えるべきである²³。

このことから、自他の過失に関する句も借用関係とは言えないが、著者はこの表現を多用していたことが解る。

さらに、譬喩的表現についても、類似表現を他の同じ著者の論書に見ることができる。まず、

例えば、翼が不完全な鳥は空を飛ぶことができないように、見と行がない人はどのように解脱しようか²⁴。 [BS 10-13]

と言う句における翼が不完全な鳥の例えは、*Bodhipathapradīpa* にも見ることができる。

例えば、翼が破れて広げることができない鳥は空を飛ぶことができないように、そのように神通を得ることを離れた者は、衆生に利益をなすことはできない²⁵。 [BPP 141-144]

喩例で用いられる翼の状態を示す言葉が異なっているものの、示す意味は同じである。ただし、例えられる内容としては、本論では「見と行がなければ解脱ができない」ことを示すのに対し、*Bodhipathapradīpa* では「神通がなければ衆生利益ができない」と異なる内容である。

さらに、同じような喩例の類似は、第 39 パーダにも見ることができる。すなわち、

²³ *Ratnakaraṇḍoghāṭa*, D. No, 3930, Ki 108b6-7 (Miyazaki 2007: 44): bla ma rje btsun A va dh ū tī pa'i zhal nas / rang skyon rtog la mig mnon bzhin // gzhan skyon rtog la long ba bzhin // drang dang nga rgyal med pa dang // rtag tu stong nyid bsgom par bya // snying rje dngos dang brgyud pa yis // bdag dang gzhan mams brje bar bya // gang phyir rang bas sems can gces // zhes bla ma Na ro pa'i zhal nas gsungs skad / byang chub sems dpa' rang bas gzhan gces par bya dgos pas bdag dang gzhan brje bar bya'o //

²⁴ BM 10-13: ji ltar 'dab gshog ma tshang ba'i // bya yis mkha' la 'phur mi nus // de bzhin lta spyod med pa yi // gang zag dag ni ji ltar grol //

²⁵ *Bodhipathapradīpa* (= BPP) 141-144: ji ltar 'dab gshog ma skyes pa'i // bya ni mkha' la 'phur mi nus // de bzhin mngon shes stobs bral bas // sems can don byed nus pa min //

煩惱が生じる助伴を方便により捨てて、高低の助伴すべてに対しても、水から乳を取るように、過失を捨ててよいものを取るべきである²⁶。[BS 37-40]

に言う句において、多くのものの中から自己に有益なものを選択する例えが説かれている。この同じ譬喩は、*Satyadvayāvātāra* と *Saṃsāramanoniryāṇīkāranāmagīti* において、

寿命は短いのに、知るべきことは多い。寿命の量もどれくらいなのかを知ることはないので、鷺鳥が水中で乳を得るように、自分の清浄なる望みを得なさい²⁷。[SD 105-108, SM 80-83]

と説かれており、さらに、*Bodhimārgadīpapañjikā* にも同じ譬喩が見られる²⁸。ここでは、*Satyadvayāvātāra* と *Saṃsāramanoniryāṇīkāranāmagīti* が平行句になっているのだが、このことは彼がこの譬喩の使い回しをしていたことを示している。

まとめ

これらの平行句は、パーダごとの平行句を指摘したものであり、語句の類似を指摘したものではない。また、いずれもがチベット語に翻訳されたものであり、その原典における類似性まで遡及するものではない。このことを踏まえた上で、分析すると次のようになる。まず、平行句は 12 パーダであり、全体の 118 パーダの 1 割弱となり、*Bodhisattvaṃaṇyāvalī* と *Vimalaratnalekha* との間に見られる平行句ほどの親密性は見られない。ただし、両者以外の著作との平行句も見られるものの、この二つの文献との重複度が突出しているため、そこに何らかの関係を推測することは可能である。もちろん、*Bodhisattvaṃaṇyāvalī* と *Vimalaratnalekha* との先後関係も不明であるが、このどちらかのフレーズを参考にして本論がまとめられた、ある

²⁶ BS 37-40: nyon mongs skye 'gro thabs kyis spang // mtho dman grogs kun dag la yang // chu las 'o ma len pa bzhin // nyes pa dor la legs pa blang //

²⁷ *Satyadvayāvātāra* (= SD) 105-108 (*Saṃsāramanoniryāṇīkāranāmagīti* (= SM) 80-83): tshe ni yun thung shes bya'i rnam pa mang // tshe yi tshad kyang ji tsam mi shes pas // ngang pa chu las 'o ma len pa ltar // rang gi 'dod pa dang la blang bar gyis //

²⁸ 望月 2015: 132.

いは翻訳された可能性がある。また、譬喩の借用は複数の著書に確認できた。もちろん、先行する他の著者の論書を典拠にした可能性もある。

今回の調査は、パーダの比較に基づくものであるが、語句の類似を調査すれば、*Dīpaṃkaraśrījñāna*、あるいはその翻訳者のフレーズングのパターンを知ることができるのかもしれない。また、彼の小部文献が、チベットにける説法に基づくものであるとするのならば、それにより彼がチベットに伝えたかった菩薩行の核心が明らかになるであろう。

『菩薩行略教訓』和訳

インドの言葉で、*Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda*

チベットの言葉で、『菩薩行略教訓』

仏と菩薩のすべてに敬礼する。

確実によい菩提と明らかな善趣を得ようとする者は、三宝を尊と把握してから、最初に悲心を普く見る。[1-4]

それから、菩提心を起こして、方便をともなう行により自らの心そのものを最初に調伏させる。最初に自性を調伏しなければ、他者を調伏することがどうしてできようか。[2-9]

例えば、翼が不完全な鳥は空を飛ぶことができないように、見と行がない人はどのように解脱しようか。[10-13]

それ故に、その二つを成就させるために、困難な大きな努力をなすべきである。難行により修練せずに、易行により修習することにどうしてなろうか。[14-17]

鎧を着て重荷を運ぶその勝者の子は、善友に依って、三智を根本にもってから、最高の位に行く見そのものを第一に修練し、清浄な戒の衣を着て、勤勉に大事にするべきである。[18-23]

法に続いて成就させるために、すべての時と機会においても、前行と本行と結行の三つにより業を憶えることで成し遂げるべきである。[24-28]

過失を捨て、うまく成就して意味あることをなし、行道を無意味になさず、常に自分の功德を修練する。[29-31]

善の方向の加行を広げるべきで、落胆して心を失わず、過失を捨て、善なる功德を広げる助伴を求め、それに順応した心を把握し、功德をもつ者に対して敬礼すべきである。[32-36]

煩惱が生じる助伴を方便により捨てて、高低の助伴すべてに対しても、水から乳を取るように、過失を捨ててよいものを取るべきである。[37-40]

なされたことに対する恩を憶え、再び利益をなし、他者の罪過を縁とせず、善を中断すべきではない。[41-43]

高所に円満な者に対する妬みはなく、助伴と低い者に対して軽蔑する方便と、特に殺生そのものをなすべきではない。自分の過失と他者の功德を数え、他者の過失を述べず、自らを賞讃しない。[44-48]

これよりも後のものを第一のものと把握して、九つの行為を法に従ってなすべきである。この財産を捨てて、聖者の宝で身体を飾るべきである。[49-52]

苦を楽と把握せず、蒙昧と怠惰と錯乱を捨てて、確実に死の想を起こすべきである。[53-55]

小善も努力により成就させ、小さな罪過も捨て、法のためではない食事や衣を求めず、少欲と知足をなすべきである。[56-60]

世間の八法を捨てて、お世辞や媚びへつらいなどをなすべきではない。自分に過失があることを感受せずに、他者の過失を考察するべきではない。[61-64]

話を喜ぶことを認めることを大胆になしてから、そのように成就しないことを捨てるべきである。狡さや偽りをなすべきではなく、誤った生活を捨てて、法に従って成就すべきである。[65-69]

親族などへの欲求により執着するべきでなく、部分的な執着は偏るべきではない。他者への要求は少なくするべきである。[70-73]

不善業を賞讃せずに非難し、必要のない喧騒を捨てて、ばかげた話を喜ぶべきではない。[74-76]

欲求による執着の希求を排除し、功德を得て、資糧を広げる業に対する臆病と恥を捨てるべきである。慢心と傲慢を対治により裂き、心を苦しめる傲慢な名声を捨てるべきである。[77-82]

本質と相続によりすべての衆生が親族となるので、身口意の三の無垢により彼らすべてを子のように見るべきである。[83-85]

悲心のままに微笑んで本音で話し、喜びの目ですべてを見なさい。まわりの助伴の高低と遠近を等しくして、賞讃と恭敬を自慢せず、誹謗と侮辱に対して怒らず、貧者を悲心により利益に縛りつけることをなすべきである。[86-92]

いかなるものに対しても執着を捨てるべきで、劣った者に対する悲心と利益の思いで教誡をなすべきである。衆生に対する種々なる思いによりなすべきことの大義を考察してなすべきである。[93-97]

すべてを喜ばすことを誰ができようか。しかも後悔がないことにより、苦を見下して、楽に執着せずに、自分の心を浄化し、他の心を把握する。[98-101]

軽蔑や罪過の生起などの対治の業と虚妄による修練をそのように見て、菩提行の本尊を堅固にすべきである。[102-105]

人身の宝を浪費せず、確実な死で盲目にならず、精進を火のように激しく行う。[106-108]

執着する我見の根本を断ち、三時の輪廻を対治により断じ、顛倒の崖を捨て、輪廻の相続を断じてから水を飲む。[109-112]

三悪趣の門を断ち、三苦の病を寂滅し、善趣の解脱の福分に上り、二障を浄化し、二資糧を完成し、身と知の地を得て、努力なしに利他が成就する。[113-118]

『菩薩行略教訓』偉大な軌範師ディーパンカラシュリージュニャーナによる著作を完成する。

Bodhisattvacaryāsūtrīkṛtāvavāda チベット語テキスト

// ³¹rgya gar skad du / *Bo dhi sa twa tsarya sū*²⁹ *tri kṛ*³⁰ *ta pa bā ra* /

bod skad du / ³¹ *Byang chub sems dpa'i spyod pa mdo tsam gdams ngag tu byas pa* /

sangs rgyas dang byang chub sems dpa' thams cad la phyag 'tshal lo³² //

nges par legs pa'i byang chub dang //

²⁹ D1 *su*.

³⁰ G1N1P1 *kri*.

³¹ D2G23N23P23 *om*.

³² G3 *'tshalo*.

mngon par mtho³³ ba thob 'dod pas //
 dkon mchog gsum la lhar bzung³⁴ nas //
 dang po snying rje³⁵ kun la lta³⁶ //
 de nas byang chub sems bskyed de // 5
 thabs dang ldan pa'i spyod pa yis //
 rang gi³⁷ sems nyid dang por gdul //
 dang po³⁸ rang nyid ma 'dul³⁹ bar //
 gzhan dag gdul⁴⁰ bar ji ltar nus //
 ji ltar 'dab gshog⁴¹ (N3. 12a) ma tshang ba'i // 10
 bya yis⁴² mkha' la 'phur⁴³ mi nus //
 de bzhin lta spyod med pa yi //
 gang zag dag ni ji ltar (D2. 10b) grol //
 de phyir de⁴⁴ gnyis⁴⁵ 'grub (G3. 14a) pa'i phyir //
 dka' (G1. 375b) ba'i 'bad pa (G2. 470b) chen pos⁴⁶ bya⁴⁷ // 15
 dka' bas sbyang ba⁴⁸ ma byas par //
 sla bas goms par ji ltar 'gyur //
 go⁴⁹ bgos⁵⁰ khur khyer rgyal sras des⁵¹ //
 dge ba'i bshes gnyen bsten byas⁵² te //

³³ N3 *mthong*.

³⁴ N2P2 *gzung*.

³⁵ D2G3N3P3 *rjes*.

³⁶ D2G3N3P3 *blta*.

³⁷ G3N3P3 *gis*.

³⁸ D2G3N3P3 *por*.

³⁹ D2GN3P3 *dul*.

⁴⁰ G3N3P3 *dul*.

⁴¹ G2N2P2 *bshog*.

⁴² G3 *yi*.

⁴³ N1 *phur*.

⁴⁴ N2 *de*'i.

⁴⁵ P1 *nyid*.

⁴⁶ D2 *po*.

⁴⁷ D2 *po*, N2 *byang*.

⁴⁸ G2N2P2 *sbyangs pa*.

⁴⁹ N2 *gong*.

⁵⁰ G2N2P2 *dgos*.

⁵¹ P1 *de*.

⁵² D1 *ryas*.

shes rab gsum la gzhi⁵³ bcas nas // 20
 go 'phang mchog tu 'gro ba yi //
 lta ba nyid la gtsor sbyangs te //
 (P3. 13b) tshul khrims gtsang ma'i gos gyon nas //
 sgrub la nan tan gces⁵⁴ su⁵⁵ bya //
 chos kyi rjes su⁵⁶ bsgrub (Pl. 273b) pa'i phyir // 24
 dus dang gnas (N1. 269b) skabs kun du⁵⁷ yang //
 sbyor ba dngos gzhi rjes gsum gyi⁵⁸ //
 las mams dran pas zin par bya //
 skyon spangs⁵⁹ legs sgrub⁶⁰ don yod bya //
 spyod lam don med du⁶¹ mi bya⁶² // 30
 rtag tu rang gi yon tan sbyangs⁶³ //
 dge ba'i phyogs kyi⁶⁴ sbyor ba la //
 spro bya zhum dang sems mi gsad⁶⁵ //
 nyes spong yon tan dge 'phel (P2. 343b) ba'i //
 grogs btsal⁶⁶ mthun pas⁶⁷ de sems bzung⁶⁸ // 35
 yon tan can la gus phyag bya //
 nyon mongs skye⁶⁹ 'gro⁷⁰ thabs kyis spang⁷¹ //
 mtho⁷² dman grogs (C. 341b) kun dag la yang //⁷³

⁵³ G12 bzhi.

⁵⁴ G1P1 ces, N3 bces.

⁵⁵ N1 cesu, N2 gcesu.

⁵⁶ G2N13 rjesu.

⁵⁷ GNP tu.

⁵⁸ G23N23P23 gyis.

⁵⁹ D2N3P1 spang.

⁶⁰ D2G23N23P23 bsgrub.

⁶¹ N3 medu.

⁶² D2GNP gnas.

⁶³ D2GNP sbyang.

⁶⁴ P2 kyis.

⁶⁵ G2P1 gsang.

⁶⁶ N2 tsal.

⁶⁷ G3N3P3 pa.

⁶⁸ D2G12N12P12 gzung, G3N3P3 zung.

⁶⁹ N3 skyes.

⁷⁰ D2GNP grogs.

⁷¹ G2N2P2 yang.

chu⁷⁴ las 'o ma len pa bzhin //
 nyes pa dor la legs pa blang // 40
 byas la⁷⁵ (N2. 339a) drin gzo slar phan gdags //
 gzhan gyi sdig rkyen mi bya zhing //
 dge ba'i bar chad mi bya'o⁷⁶ //
 mtho la phun tshogs phrag dog med //
 grogs dang dman (G2. 471a) la brnyas thabs dang // 45
 khyad du gsad⁷⁷ pa nyid mi bya //
 rang skyon gzhan gyi yon tan bsgrag //
 gzhan skyon mi gleng rang mi bstod //
 'di bas phyi ma gtsor gzung ste //
 byed dgu chos dang bstun (G1. 376a) te bya // 50
 'di yi zang zing rnam spangs te //
 'phags pa'i nor gyis lus brgyan bya //
 sdug bsngal dag la bder mi bzung⁷⁸ //
 gnyid rmugs le lo g-yeng spangs te //
 nges par 'chi ba'i dus⁷⁹ shes bskyed // 55
 dge ba chung yang (G3. 34b) 'bad pas bsgrub //
 sdig pa chung yang rnam par spang⁸⁰ //
 chos kyi ched du ma gtogs par //
 kha zas gos sogs don mi gnyer⁸¹ //
 'dod pa chung dang chog⁸² shes bya // 60
 'jig rten chos (N3. 12b) brgyad rnam par spang⁸³ //

⁷² G3N3 *mthon*.

⁷³ G2 adds *khyad du gsad pa nyid mi bya'o* //

⁷⁴ G2 *rang du* for *chu*.

⁷⁵ CD1 *pa*.

⁷⁶ G2N2P2 *bya zhing*.

⁷⁷ D2G3N3P13 *bsad*.

⁷⁸ D2GNP *gzung*.

⁷⁹ D2GNP *'du*.

⁸⁰ G3N3P3 *spangs*.

⁸¹ G3 *gter*.

⁸² P1 *mchog*.

ngo dga' gzhogs⁸⁴ slong⁸⁵ sogs mi bya //
 rang la skyon yod mi tshor⁸⁶ bar //
 gzhan gyi skyon la dpyad mi bya //
 smra dga' khas len dga'⁸⁷ byas nas // 65
 de bzhin (P3. 14a) mi sgrub⁸⁸ spang bar bya⁸⁹ //
 g-yo dang sgyu⁹⁰ dag mi bya zhing //
 log pa'i (D2. 11a) 'tsho ba rnam⁹¹ par spang //
 chos dang mthun pas sgrub⁹² par bya //
 nye du 'brel pa la sogs la // 70
 zhen par⁹³ chags par⁹⁴ mi bya zhing //
 phyogs ris zhen phyogs med par bya //
 gzhan la re ba chung bar bya //
 (P1. 274a) mi dge'i (N1. 270a) las la mi bstod smad //
 dgos pa med pa'i 'du 'dzi spang // 75
 bre (G2. 471b) mo'i gtam la dga' mi bya //
 zhen⁹⁵ pas 'dod pa'i yid smon dgag //
 yon tan thob dang tshogs 'phel ba'i //
 (P2. 344a) las la zhum dang ngo tsha spang⁹⁶ //
 nga rgyal khengs pa gnyen pos gzhom // 80
 zhe gdug⁹⁷ kheng⁹⁸ grags rnam par spang⁹⁹ //

⁸³ G3 *spangs*.

⁸⁴ D2GNPP *gzhog*.

⁸⁵ G23N23P23 *slongs*.

⁸⁶ G3 *mtshor*.

⁸⁷ G1N1P1 *pa*, G2P2 *dpa'*.

⁸⁸ G2N2P2 *bsgrub*.

⁸⁹ G2 *byas nas* for *bya*.

⁹⁰ G2N2P2 *rgyu*.

⁹¹ G2 *rnam*.

⁹² D2GNP *bsgrub*.

⁹³ D2G13N13P13 *pas*.

⁹⁴ G2 *pa*.

⁹⁵ CD1G1N1P1 *zhes*.

⁹⁶ P2 *dga' spang ba* for *ngo tsha spang*.

⁹⁷ D2 *gdung*.

⁹⁸ D2 *khe*.

⁹⁹ G1N1P1 *spangs*.

dngos dang brgyud pas sems can kun //
 nye du 'brel par (N2. 339b) gyur pas¹⁰⁰ na //
 lus ngag yid gsum dri med pas //
 de dag kun la bu bzhin blta // 85
 snying rjes¹⁰¹ bzhin 'dzum gsong por smra //
 dga' ba'i mig (G1. 376b) gis kun¹⁰² la blta //
 'gror¹⁰³ grogs mtho¹⁰⁴ dman nye ring snyoms //
 bstod dang (C. 342a) bkur stis¹⁰⁵ mi dregs¹⁰⁶ shing //
 smod dang brnyas la zhe mi sdang // 90
 phongs pa rnams la snying rje yis //
 phan ni gdags pa nyid du bya //
 gang la chags¹⁰⁷ pa spang bya ste //
 dman pa rnams la snying rje dang //
 phan pa'i bsam pas gdams ngag bya // 95
 sems can bsam¹⁰⁸ pa tha dad pas //
 bya ba don chen¹⁰⁹ brtags te bya //
 thams cad mgu bar su yis¹¹⁰ nus //
 (G3. 15a) 'on kyang 'gyod pa med pa yis //
 sdug bsngal khyad bsad¹¹¹ bde¹¹² ma chags // 100
 rang gi sems sbyang¹¹³ gzhan sems gzung¹¹⁴ //
 brnyas dang nyes pa byung la sogs //

¹⁰⁰ D1 *pa*.

¹⁰¹ G2N2P2 *rje*.

¹⁰² D1 *gun*.

¹⁰³ D2G23N23P23 *'khor*.

¹⁰⁴ D2G3N3P3 *mtho*.

¹⁰⁵ G1N1P1 *sti*.

¹⁰⁶ G2 *dregs mi dreg*.

¹⁰⁷ N1 *chad*.

¹⁰⁸ G2 *bsam*.

¹⁰⁹ G2 *med*.

¹¹⁰ P1 *yi*.

¹¹¹ C *gsad*.

¹¹² D2 *bder*.

¹¹³ D2G12N12P12 *sbyang*.

¹¹⁴ G1N1P1 *zung*.

gnyen po las dang brdzun pas sbyang //
 de ltar blta zhing byang chub kyi //
 spyod pa yi dam brtan par bya // 105
 mi lus rin chen chud mi¹¹⁵ gsan //
 nges (G2. 472a) par 'chi bas long med¹¹⁶ srid //
 brtson 'grus me bzhin drag tu spyod //
 mngon zhen bdag lta'i rtsa ba chod //
 dug¹¹⁷ gsum 'khor ba gnyen pos (P3. 14b) chom¹¹⁸ // 110
 phyin ci log gi g-yang sa dor //
 'khor ba'i rgyun (N3. 13a) chod las chu skoms¹¹⁹ //
 ngan song gsum po sgo chod la //
 sdug bsngal gsum gyi nad gzhi¹²⁰ ste¹²¹ //
 mtho ris thar pa'i skal la 'dzegs // 115
 sgrib pa gnyis sbyongs tshogs gnyis rdzogs //
 sku dang ye shes sa¹²² 'thob¹²³ ste //
 'bad pa med par gzhan don sgrubs¹²⁴ //

(P1. 274b) *Byang chub sems dpa'i spyod pa mdo* (N1. 270b) *tsam gdams ngag tu byas pa*
 / slob dpon (P2. 344b) *chen po dpal Mar me mdzad*¹²⁵ ye (D2. 11b) *shes kyis*¹²⁶ *mdzad pa*
*rdzogs so*¹²⁷ // // ¹²⁸

¹¹⁵ N2P2 *ma*.

¹¹⁶ D2G3N3P3 *mi*.

¹¹⁷ G3N3P3 *dus*.

¹¹⁸ D2G2N2P2 *choms*.

¹¹⁹ D2 *bcu spongs for chu skoms*.

¹²⁰ D2G23N23P23 *zhi*.

¹²¹ G1N1P1 *te*.

¹²² G2 *sa ba*.

¹²³ GNP *thob*.

¹²⁴ G13N13 P13 *bsgrubs*.

¹²⁵ G1 *medzad for me mdzad*.

¹²⁶ N1P1 *kyi*.

¹²⁷ G1N3 *rdzogso*.

¹²⁸ G1 // *bkris* //, G2 // *suba manggalaṃ* // //.

参考文献

Dietz, Siglinde

1984 *Die buddhistische Briefliteratur Indiens: Nach dem tibetischen Tanjur herausgegeben, übersetzt und erläutert.* Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

Eimer, Helmut

1981a “Die ursprüngliche Reihenfolge der Verszeilen in der Bodhisattvamaṇyāvalī,” *Zentralasiatische Studien* 15: 323-329.

Geshe Lobsang Dargyay

1978 *Atiśa's «Juwelenkranz des Bodhisattva»*, Rikon: Tibet Institut.

Sherburne, Richard, SJ.

2000 *The Complete Works of Atiśa, Śrī Dīpaṃkarajñāna, Jo-bo-rje. The Lamp for the Path and Commentary, together with the newly translated Twenty-five Key Texts*, New Delhi: Aditya Prakashan.

宮崎泉

2007 「『中観優波提舍開宝篋』テキスト・訳注」『京都大学文学部研究紀要』 46: 1-126.

望月海慧

2004 “Some Remarks on the Small Texts Attributed to Dīpaṃkaraśrījñāna,” *Joong-ang Sangha University Magazine* 20: 61-74.

2015 『全訳 アティシヤ 菩提道灯論』起心書房

2016a 「Dīpaṃkaraśrījñānaによる二つの所作次第について」『印度学仏教学研究』 64-2: 88-95.

2016b 「アティシヤとパーラ王」『宗教研究』 89別巻: 284-285.

2016c “Dīpaṃkaraśrījñāna's activity at the Vikramaśīla Monastery in Relation with the Pāla Dynasty,” 『東洋文化』 96: 63-80.

(本研究は科学研究費基盤研究(C) (課題番号70319094)および基盤研究(B) (課題番号26284008)の助成を受けた研究成果の一部である)